

ひらがな・漢字単語の完成・検索課題による音読支援効果

— 指導効果の持続と音読に対する意識調査 —

○増田純子¹

銘苅実土²

中知華穂²

小池敏英³

(¹NPO 法人スマイル・プラネット)

(²東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所)

(³東京学芸大学教育学部)

KEY WORDS: 学習障害, 音読支援, 学習支援

【目的】

我々は音読支援に単語完成課題や単語検索課題が有効であることを報告してきた。NPO 法人スマイル・プラネットでは、これらの課題を支援教材として導入し、教科書の単元に対応した音読支援教材を開発し発表してきた(図1)。本研究は、単語完成課題や単語検索課題による支援教材を用いてトレーニングを実施し、その有効性を検討することを目的とした。



図1 スマイル・プラネット支援教材「漢字読みプリント」

【方法】

* 研究の実施及び成果の発表については、趣旨を保護者に説明し、文書で同意を得た。

(1) 対象児

小学校通常学級に在籍する3・4年生のLD児4名。本研究では、①WISC-IIIないしIVにおいてFIQが70以上を示すもの、②通級指導教室の担当教諭によってLDと判別された、または、小児神経科医によりLDと診断されたもの、③稲垣ら(2010)のガイドライン読み検査課題において2項目以上で平均+2SD以上を示すものを、LD児とした。

(2) トレーニングと音読評価

課題文は、4種の説明文(以下、各説明文を其々単位とする。)を用いて作成。文章は、当該学年より1学年下の教科書準拠のひらがな・漢字単語を含む。4単位の内3単位にトレーニングを実施し、1単位には行わない。

トレーニングとして、①単語完成課題(欠落のあるひらがな単語や漢字単語の読み仮名を完成させる課題。音読文章1枚ごとにひらがな単語と漢字単語を各5単語ずつ選択)。②単語検索課題(文字列中より指定された単語を探し、丸で囲む課題。単語完成課題の単語に対応)を実施した。

音読評価として、①読み検査課題(指導前にガイドライン読み検査課題、指導後にガイドライン等価課題、1年(9~14か月)後にガイドライン読み検査課題)、②指導文の音読課題(単位プレ・単位ポスト: トレーニング実施前後に1単位全文を音読する課題、小プレ・小ポスト: 1枚ごとのトレーニング前後に音読する課題)を実施した。

評価は、①読み検査課題、②指導文の音読時間・誤読数・漢字の読み・流暢性で行った。

(3) 手続き

音読指導は、インターネット電話サービスにて原則週3回の頻度で全13回実施。1回につき1枚の文章を指導した。

(4) アンケート

1年後読み検査課題実施時に、対象児の保護者に「読み」についてのアンケートを実施。項目は、ガイドラインの「読み書きの症状チェック表」を参考に5項目作成し、指導前・指導後・1年後の様子を其々5段階で調査した。

【結果・考察】

(1) 支援に伴う音読の改善

読み検査課題の結果は全ての児童で、音読時間・誤読数の減少がみられた。1年後の読み検査課題においては(図2)、他3名の児童では全ての項目で学年相応域となった。また、音読課題では指導を行った文については、全ての児童で音読時間・誤読数が減少し、漢字の読みの正答率が上がった。流暢性も、改善が認められた。トレーニング未指導文においても音読時間や誤読数が減少し、トレーニングの効果が波及したと考えられる。

これらのことより、NPO 法人スマイル・プラネットの音読支援課題は、文章の音読の流暢性促進に有効であった。

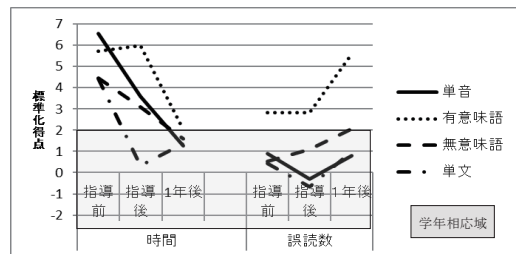


図2 A児ガイドライン読み検査課題結果

(2) アンケート結果

図3は、A児保護者のアンケート結果である。全ての項目において、指導後の読みの改善を認めた。1年後では3項目でさらなる改善を認めた。

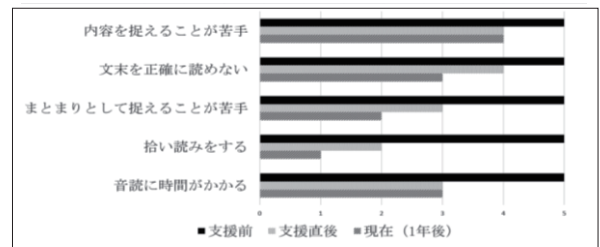


図3 A児保護者アンケート結果

(3) 教科書準拠に基づく支援環境の有効性

NPO 法人スマイル・プラネットにおいて開発した支援教材は、漢字単語を含む文章の読みに有効であった。現在、光村図書と東京書籍の教材が、ウェブサイトよりフリーで利用できる(図4)。

プレ漢字プリントの設定



図4 ウェブでの表示

【文献】

後藤ら(2011)特殊教育学研究, 49, 41-50. 熊澤ら(2013)学校教育学研究, 28, 31-42. 稲垣真澄(2010)特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン. (MASUDA Sumiko, MEKARU Mito, NAKA Chikaho, KOIKE Toshihide)